

1 研究主題

子どもたち一人一人が意欲的にコミュニケーション活動に参加できる指導の工夫

2 研究の概要と実際

月 日	活 動 の 概 要
6月21日(金)	<p>○授業づくりセミナー                      講師 敬和学園大学 客員教授 外山節子先生                      「授業に使える効果的な教材の紹介」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・多重知能理論を活用した、多様な子どもの実態に合った授業づくりについて、実践例を紹介してもらい、指導計画づくりに取り組む。</p>
9月25日(水)	<p>○授業研究とワークショップ                      講師(授業者) 燕市立松長小学校 落合義貴教諭                      題材名 「Hi, friends1 Lesson7 “What’s this?”」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・大崎小5年児童への飛び込み授業を参観、協議し、オールイングリッシュの授業のあり方を考える。また、英語活動授業における様々な教育技術を講師より学ぶ。</p>

3 研究の成果と課題

- (1) 45分間の授業の中に、多様な知能を使った活動を取り入れると、次のような利点があることが分かった。
- ア 論理的な子、語彙の豊富な子、音楽が好きな子、体を動かすことが好きな子など、様々な子が混在する教室で、それぞれの子を満足させられる。活躍させられる。
  - イ 授業を5分位の短い活動のパーツで組み立てることで、子どもの集中力を維持させやすい。(5分間のパーツ×9=45分間)
  - ウ 授業を組み立てる際の活動を考えるツールとなる。
- (2) フラッシュカード活用のバリエーションやオールイングリッシュで授業を組み立てる際のクラスルームイングリッシュ、様々な活動を行う際の留意点など、授業ですぐ使える教育技術を教えてもらい、実習も出来た。研修が深まり、参加者も満足できた。